

2018年吉田寮 春季入寮募集宣言

(Manifesto of Yoshida dormitory's recruits 2018 spr. : Check QRcode below)

2018年2月22日 吉田寮自治会

2017年12月19日、京都大学は『吉田寮の安全確保についての基本方針』を公表しました。この方針には、京都大学が2018年1月以降の吉田寮への新規入寮を認めないことなどが記されています。

しかし私たち吉田寮自治会は、学生の福利厚生施設・セーフティーネットとしての寮であるために、またその自治・自主管理を続けていくために、今まで通り新規入寮者を受け入れることが欠かせないと考えています。ですから、私たちは2018年度春期も入寮募集を実施します。

吉田寮は京都大学の福利厚生施設です。すなわち、何らかの理由で京都大学に通う必要がある・通いたい学生のための施設です。吉田寮はここ約30年にわたって入寮資格を自主的に拡大し、年齢・性別・国籍を問わず京都大学の学籍を有する者に住居を提供してきました。

もしも吉田寮が入寮募集をやめたら、大学側が提供している経済・住居支援は代わりとなるでしょうか。

—答えはNoです。京大の授業料免除・奨学金制度には問題があります。異なる保障もまた必要です。

—答えはNoです。研究生・留学生等が安く簡単に住める寮がありません。大学管理寮は不十分です。

—答えはNoです。大学管理寮の入居上限は1年で、セーフティーネットとして機能していません。

吉田寮は大学で学ぶ人・学びたい人のセーフティーネットであり続けてきましたし、そして今後もそうあり続けたいと考えています。不断的努力によってこそ、このような福利厚生施設およびその基盤である自治・自主管理は存続できます。

また、吉田寮では物事を考える上で当事者と対話し、合意形成を図るということを何よりも大切にしてきました。この当事者との対話を尊重するのであれば、入寮募集を行なった上で、その希望者に対し真摯に今の状況を説明していくべきであると私たちは考えます。私たちはこの場所を求める人たちをある日突然追いだしたり、話し合いを打ち切ったりすることは決してしません。「窓」はいつも開かれています。

今や京都大学では、自由と対話ではなく管理と命令が行われようとしています。しかし、私たちはあくまでこれまで通りに自治を主張し、当事者らと大学との話し合いによる老朽化対策の取り扱いを求めます。私たちは約40年にわたり話し合いで老朽化対策を前進させてきました。いま前進を妨げているのは、過去を軽んじて現状を誤認し、未来を命令する京都大学です。「窓」を閉ざしているのは京都大学です。したがって、これまで結んできた確約に則る話し合いをせず一方的に入寮募集を停止させる京都大学に抗議します。

私たちは2018年度春期も入寮募集を実施します。来たれ、入寮希望者。



English Page
(application papers)



在寮期限問題
特設サイト



WEB 署名
「吉田寮を取り壊さないで！」



吉田寮公式サイト
(応募書類はこちら)